

令和5年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

小学生の部 社会を明るくする運動可児地区推進委員会 会長賞

「つながり続ける、私の地域」

可児市立春里小学校 5年

森本 在

「おはよう。気を付けて行くんだよ。いってらっしゃい。」

近所に住むおじさん、Yさんの気持ちの良いあいさつが毎朝響く。

「おはようございます。」

「いってきます。」

私が住んでいる地域の子どもたちは、Yさんのあいさつに元気よく、時にはしぶしぶ応える。私は、Yさんのあいさつが好きだ。Yさんのあいさつは、私を「今日も一日頑張るぞ」という気持ちにさせる。

Yさんは、毎日登下校の時間に合わせて外掃除をする。小学生だけでなく、中学生、高校生、全ての子どもたちにあいさつをし、安全に登下校できるよう見守ってくれているのだ。Yさんは、見守りサポーターでも、あいさつの活動などに参加している訳でもない。あいさつをする、見守る、という義務がないにも関わらず、毎朝自発的におこなっているのだ。おかげで、私たち地域の子どもはいつも誰かが見守ってくれているという安心感の元、楽しく安全に暮らしている。

私は、こうしたYさんの行為を尊敬する。Yさんのようになりたいと、分団長として出来る限りのあいさつ、声かけを頑張っているが、二年後、私が分団長ではなく中学生になっても、今と同じようにできるだろうか。Yさんのように、義務ではなく自発的にあいさつ、声かけを続けていけるだろうか。

近所に住む中学生のRさんは、一年前まで私の分団の分団長だった。Rさんは分団が安全に登下校できるよう常に目を配り、もちろんYさんにも元気なあいさつで応えていた。Rさんは卒業し、中学生になったが、今でも小学生の私たちに、

「おはよう。」

「元気にしてる？」

「学校どう？」

「がんばってね。」

「だいじょうぶ。きっとできるよ。」

と、会うたびにRさんは、優しい言葉をかけてくれる。時には、

「飛び出しちゃ駄目！」

「それはしてはいけないことだよ。」

と、厳しい声かけまでしてくれる。注意をまったく聞かない子もいるが、Rさんの声かけは続いている。もう分団長ではないのに、気にかけてくれるのだ。RさんはまるでYさんのようだ。自発的にあいさつ、声かけをしてくれる。そう、正に私はこうなりたいのだ。

あいさつや声かけは、人と人を結ぶというが、結びついた先には、その結びつきを絶やさず大切に守っていくという自発的な行為につながっていくのだと思う。Yさんの行為がRさんの行為につながり、今度は私がRさんのようにになりたいと思っている。そして、こう思っているのは私だけではないはずだ。私と同じように思っている人が多いからこそ、私が住む地域はいつもだれかとつながり、見守り、見守られる、安心して暮らせる地域なのだと思う。

二年後、私は中学生になる。五年後は高校生で、その後は大人だ。いくつになっても、私はあいさつ、声かけをし続けるだろう。時には、無視され、わずらわしいと思われることもあるだろうが、かまうもんか。いつかだれかが私を見て、今の私と同じ思いを持ってもらえる存在になりたいのだ。